

高志

長岡高専同窓会報 第17号

発行日 平成23年12月

主な内容

会長あいさつ	1
名誉会長あいさつ	2
創立50周年記念募金ご寄附に感謝して	3
長岡高専、人生の半分を過ごした場所	4
TOPICS	5
ロボコン	6
学生海外派遣研修 2010	7
OB通信	8
退職のことば	9,10,11
教員の異動	12
学科生及び専攻科生の進路状況	12,13
同窓会長賞受賞者紹介	13,14
体育大会入賞者	14
決算・予算報告	15,16
事業年表・編集後記他	17

会長あいさつ

(土木1回卒) 伊藤 恒彦



はじめに、本年3月11日に発生した東日本大震災により亡くなられた方、被災された皆様にご心からお悔やみとお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復旧、復興をお祈りいたします。

さて、世界は今大きな変革の時代に入り、国の内外を問わず「Change」をキーワードに多方面で変化が起こり、そこでは今までのルールが通用せず新たな仕組みが求められており、その中で生き抜くためには自らが時代の変革を捉え変わっていく必要があるのではないのでしょうか。

経済界においてはリーマンショック以来、世界的に非常に厳しい状況が続く、企業の生産調整、工場閉鎖などにより多くの方が職を失う状況が起きています。さらに、今回の大震災による原子力発電所の事故を受け、国内の電力供給も不安定な状況下で企業は操業時間の見直し等に取り組み生産を行っている状況があり、一日も早く安定的な電力の供給がなされ国民生活や企業活動が正常な状態に戻ることを願いたい。

また、自然界においても世界各地の異常豪雨、地震災害の多発など、私たちを取り巻く環境に大きな変化が起きており、この変化を的確に捉え、素早く変化に対応できる能力が求められているのではないのでしょうか。

本校は昭和36年に長岡工業短期大学が創設され、

翌昭和37年に長岡工業高等専門学校として発足し、以来幾多の変遷を経て、本年創立50周年を迎えました。これまで8,500人有余の卒業生を送り出し、県内及び国内はもとより海外を舞台に多くの同窓生が活躍されており、母校の名声を広く高めていることに対し心強さと誇りを強く感ずるものであります。なお、本年開催を計画しておりました50周年記念行事につきましては、東日本大震災の発生により来年に延期となりました。

これからの技術者は先行き不透明な時代ではありますが、一層高度化と進化のスピードを増すであろう技術の方向性を的確に見極め、変化する社会の要請に応えられる技術力を身につける事が重要ではないのでしょうか。

最後に、本校と高志会の更なる発展、会員の皆様のますますのご活躍とご健康を祈念申し上げ、挨拶とさせていただきます。



当時の長岡高専（昭和39年）



諸先輩の活躍の上に 長岡高専の輝かしい未来を

長岡工業高等専門学校長

渡 邊 和 忠



高田校長の後を引き継いで、4月に長岡高等工業専門学校校長に就任いたしました。本校創立50周年に当たる記念すべき年に校長として本校の運営に携わることが出来たことに心から感謝するとともに、その責任の重さに身が

引き締まる思いです。

明治二十年代の東山油田の開発に始まる長岡地域の工業の発展を背景に、長岡地域の人たちが長年抱いてきた工業系高等教育機関への強い期待の中で本校が設立されましたが、創設以来五十年に渡って優れた人材を輩出し、十分にその期待に応えてきたことを、新任校長の私ですら強く感じる機会が多々あります。新任の挨拶回りや各種の会合などで、また東京の友人からも「長岡高専はすごい学校ですね」、「自分の会社にも長岡高専出身の人がいるが、大変、有能な人です」などと云って頂き、自分がこれまで高専の教育に携わった訳でもないのに誇らしい気持ちになりました。

長岡高専の校長に就任して、まずは高専制度や長岡高専の歴史・社会における位置づけなど、自分なりに少しずつ勉強させて頂いています。高専制度設置の目的は「深く学問を教授し、職業に必要な能力を育成する」とありますが、その狙いは「卒業生は中級技術者として、大卒・院卒の技術者と熟練工の橋渡しや両者の役割を担う」（平成21年6月中央教育審議会第10回「キャリア教育・職業教育特別部会」配布資料）ことであつたと云われています。しかし、「現実には、生産部門にあつては中核的・指導的技術者として、研究部門においても企画設計、応用開発研究を担う技術者としてかなり高い位置づけになっている」（平成20年12月中央教育審議会第67回総会「高等専門学校教育の充実について」（答申））ことから、実際には高専出身者が指導的な技術者として活躍してきたことが分かります。また、昭和51年2月の「技術科学大学設置に向けた国会答弁想定問答集」において、「高等専門学校制度の狙いは、実学を重んじ若年から実際の技術に触れさせるような教育によって、現実の課題に対応しうる実践的能力をもった指導的技術者を養成しようと

するところにある。このような「実践的な技術者」という趣旨は、決して「中級技術者」を意味するものではなく…」と書かれており、高専が決して中級（中堅）技術者養成のために設立されたのではないと明言しています。何れにせよ、高専制度設立以来、高専が優れた技術者を輩出してきたことは明らかであり、諸先輩の活躍によって、高専に対する企業の評価も高く、不況にも拘らず高い就職率を維持しております。中央教育審議会第67回総会において、高専の育成すべき人材像は、「中堅技術者の育成」から「幅広い場で活躍する高度な実践的・創造的技術者の育成」へと変更され、やっと現実になったと感じています。これも一重に、高専出身の方々が、これまで頑張つて実績を積み上げて下さったお陰と心から感謝しております。

さて、高専制度も来年50周年を迎えますが、制度創設当時と社会状況も大きく変わり、実践的教育がこれまで以上に重要視され、大学等でも盛んに実践的技術者教育を進めようとしています。もちろん、長い歴史と人間形成に主眼をおいた独特の教育システムをもつ高専の技術者教育が圧倒的に優れていると自負していますが、表面上は差別化が難しくなつてきており、高専の優れた点を更にアピールする必要があると考えています。華道家の池坊美佳さんが長岡を訪れた際に、情報誌MySkip（2011年2月号）のインタビューを受けて、長岡の印象を「町も人も静かで、ひかえ目」と愛情を込めて話しておりましたが、長岡高専も「静かで、ひかえ目」とであると強く感じています。「静かで、ひかえ目」な謙虚さは、新潟県人、或は、長岡市民のもつ優れた特質ですが、組織としては、いくら良いものでも世に知られないと衰退し、更には消え行く恐れがあります。私たちとしても最大限の広報を行つて参りますが、社会で活躍してこられた同窓生の方々が、本校を卒業したことを誇りに思い、その想いを若い世代に伝えて頂ければ、何よりの説得力をもち、鬼に金棒、本校の存在がより広く世に知られ、更に高い評価を得ることができると考えています。長岡高専は、これからも、その理念はしっかりと持ちながらも、次の50年を見据え、時代の要請に即した教育を行うように努力する所存です。同窓会の皆様方には、今後とも暖かいご支援を賜れば幸いです。

❖ 創立50周年記念募金ご寄附に感謝して ❖

50th
Anniversary



副校長(総務主事)

機械工学科 山田 隆一



皆様の母校、長岡工業高等専門学校は昭和36年6月1日、長岡工業短期大学として創設され、翌37年国立長岡工業高等専門学校として生まれ変わり、今年節目となる創立50周年を迎えました。この間、八千有余人の卒業生を輩

出し、同窓の皆様は日本国内はもとより、世界中に活躍の場を広げておられますこと、まことに喜ばしく、かつ頼もしい限りであります。

さて、創立50周年を迎えるにあたり、3年前より記念事業の準備を進めてまいりました。事業は「記念式典」、「記念講演会」、「記念祝賀会」、「記念誌の発行」、「記念植樹」および「長岡高専ロゴマークの制定」の6部門で構成されています。さらに、これら事業の遂行資金として、「記念募金」を同窓会、後援会、技術協力会および本校教職員(旧

教職員を含む)に広く呼びかけました。その結果、本年8月10日現在で総額1,200万円の寄付金が集まりました。同窓会からは個人368名の皆様から361万5千円、同窓会として200万円、合計561万円余りの多額のご寄附をいただきました。記念事業実行委員長である校長に代わりまして心より厚くお礼申し上げます。なお、15,000円以上の高額寄附をいただいた皆様には「創立50周年記念誌」を贈呈させていただきます。

記念事業の詳細は昨年中に決定し、本年6月4日(土)に記念式典、記念講演会および記念祝賀会を挙行するばかりに準備は整っていたのですが、3月11日の東日本大震災後の自粛ムードの中で一年間の延期を余儀なくされてしまいました。とても残念なことではありましたが、今は来年の開催に向けて、従来の計画に若干の修正を加えながら準備を進めているところです。ここで、現在までに決定している記念事業のスケジュールと内容を以下に示します。

1. 記念講演会

- 日時:平成24年6月2日(土) 13時30分
- 会場:長岡市立劇場大ホール
- 講師:ピーター・フランクフル氏(数学博士、大道芸人)
- 演題:真の国際人を目指すために

2. 記念式典

- 日時:平成24年6月2日(土) 16時
- 会場:ホテルニューオータニ長岡 NCホール

3. 記念祝賀会

- 日時:平成24年6月2日(土) 17時30分
- 会場:ホテルニューオータニ長岡 白鳥の間

4. 記念誌

平成23年(本年)9月刊行

5. 記念植樹

平成24年秋頃
敷地内2箇所(正門を入った坂沿い、学生駐車場)を予定

6. 長岡高専ロゴマーク

256点の応募中、現機械工学科2年吉田智広君の作品(下図)に決定
学校名英語表記の頭文字「NNCT」をデザイン化したものです
平成23年(本年)4月
1日より使用開始
平成23年(本年)9月
26日の後期始業式にて表彰



同窓の皆様には常日頃から母校へのご支援を賜りまして感謝いたしております。ここにめでたく創立50周年を迎えることができましたのは、偏に皆様の社会でのご健闘あってこそと思っております。われわれ教職員はこれからも優秀な人材を育成すべく努

力してまいります。今後とも母校長岡高専を温かく見守っていただくとともに、これまでに増してなお一層強力なご支援をいただきたくお願い申し上げます。お礼のご挨拶とさせていただきます。本当にありがとうございました。

❖ 長岡高専、人生の半分を過ごした場所 ❖

50th
Anniversary



長岡高専・名誉教授

(大化1回卒) 中 澤 章



長岡高専には、昭和三十八年から平成十四年までの三十九年間、工業化学科、物質工学科に勤務しました。退職後、平々凡々と毎日を過ごしていましたが、先輩諸氏が「そんな日々を送っているとボケが進行する」と心配して、第二の働き口をいろいろお世話下さり、現在は長岡技科大で産学連携研究員をやらせて頂いております。光陰矢のごとし、気づいて見たら、退職後丸九年が過ぎ去ろうとしています。

久しぶりに、『長岡高専二十年史』（昭和五十九年発行）を開いてみました。巻末の編集委員の皆さんの名前に懐かしさを感じながらも、すでに全員退職、その三分の一の方々は黄泉の住人、今更ながら寂寥の念に駆られています。高専在職中、一番印象に残っているのは、情報教育促進の一環として、ミニコン、HITAC-10が導入された時のことです。使用希望者が多く、しばしば、真夜中に順番が回ってきました。私もその面白さに取りつかれ、故坂田初三、故大橋 達、故桑原健一の諸先生（当時、工業化学科教授）のご配慮で、故上甲子郎先生（当時、東京理科大学経営工学科教授）の下で、品質管理とコンピュータの勉強を始めました。校務では、寮務と教務が長く、思い出が沢山あります。寮務は、授業終了後が勝負、寮生との話し合いが深夜まで続き、正直言って時にはげんなり、でも関 勝美さん（当時、寮務係長）初め、寮務係の皆さんが大変熱心で、お茶をご馳走になりながら、愚痴を聞いてもらったりしました。故小林武郎先生（物質工学科教

授）が主事するとき、主事補として仕え、寮生への対処法をみっちり仕込んで貰いました。教務は、背丈以上の役割が次々と回ってきて、毎日、無我夢中でした。特に、入試は岡本祥一先生（六代校長）の指導下、長い間行われてきた「高専先願方式」から「高専、高校併願希望選択方式」に切り替えたため、大わらわの毎日でした。中学校の校長先生への説明会で、細部まで突っ込まれて青気吐息、辞退者が少なく、定員の大幅オーバーで入学させる羽目になったり、時には辞退者が多く、追加補充のため、中学校へ電話しても、担当の先生に相手にしてもらえなかったりしました。また、小川正三先生（七代校長）の下では、校舎大改修計画が持上がり、別途委員会を立ち上げたものの、なかなか進まず、往生しました。故佐藤勝久先生（当時、環境都市工学科教授、寮務主事兼務）が「知的キャンパスのプランニング」（日科技連出版社、一九九六年）という本を入手してこられ、いろいろ夢を語り合いましたが、先生の発想力には大変敬服したものでした（NHKのプロジェクトXに登場、日本有数の空港舗装の研究者であることを後で知った）。

最近、日本の若者の内向き論争が盛んで、ノーベル化学賞受賞の根岸英一教授の「若者よ、海外に出よ」との発言もあって、俄然クローズアップされています。近頃の世情は、NHK大河ドラマ「龍馬伝」の幕末にどこか似ています。幕末の立役者は若者たち、海外へ留学した若者たちがその後の日本を作り上げていきました。高専がどんな若者たちを送り出そうとしているのか、大変楽しみです。教職員・学生の皆さんのご奮闘をお祈りしています。



TOPICS

JABEE継続審査を終えて

副校長(教務主事)

電気電子システム工学科(電気10回卒) 山崎 誠



卒業生のみなさん、JABEEを知っていますか？

最近卒業された方は聞いたことあると思いますが、聞いたことが無いと答える卒業生も多いかと思います。

JABEEは日本技術者教育認定機構(Japan Accreditation Board for Engineering Education)の略で、技術者教育プログラムの審査・認定を行っている機関です。この機関が実施する日本技術者教育認定制度とは、「大学など高等教育機関で実施されている技術者教育プログラムが、社会の要求水準を満たしているかどうかを外部機関が公平に評価し、要求水準を満たしている教育プログラムを認定する専門認定(Professional Accreditation)制度」です。JABEEはワシントン協定(Washington Accord)に正式加盟し、国際標準の技術者教育プログラムの質的保証およびその内容の向上に努力しています。また、認定を受けたプログラム修了者は国家資格である技術士の1次試験が免除されます。

長岡高専は2005年度から「生産システム・環境工学」というプログラム名で認定を受けており、昨年継続審査を受けました。前回の審査については、高志台15号に物質工学科の栗野一志先生が説明されています。昨年度実施された審査は継続審査で、前回同様に学内の多くの協力を得ながら準備を進め、7月末に自己点検書の提出、12月5～7日に実地審査を受けました。審査結果は今年5月16日付で正式通知があり、3年間の認定の継続が認められましたが、2013年度中に中間審査を実施し、更に3年間の認定を継続するか判定するというものでした。学習・教育目標の見直しや学習・教育目標とカリキュラムの整合性な

どを中心に改善に努め、中間審査に向けた準備を進めています。

さて、JABEEの認定を受けることについては、色々な意見があることも事実です。私なりにその意義を次のように考えています。高専卒業生の評価、特に採用されている企業サイドの評価は非常に高いものがあります。しかし、大学工学部も含めた技術者教育全体の中では、高専はまだまだ少数派であることも事実です。高等教育機関であり、専攻科を終了すれば学部相当、いやそれ以上の教育を実施していると自負していますが、社会全体の認識度は未だ十分ではありません。特に、技術者育成を担う高等教育機関であることのアピールをきちんとして行く必要があります。JABEEは学士レベルの技術者教育のプログラムについて審査するものです。高専の客観的な評価を認定機関から得るという大きな意義があると考えています。

JABEE受審にあたっては、高田考次前校長、吉野正信専攻科長、濱口清武事務部長、堀圭司学生課長補佐はじめ技術者教育プログラム小委員会の先生方、資料収集に協力いただいた教職員の方々、面接などに対応いただいた卒業生・在校生の方々に大変お世話になりました。お礼申し上げます。

長岡工業短期大学が先行して出発した長岡高専は、今年50周年をむかえました。高専制度自体は来年50年、半世紀が過ぎ、次の飛躍の段階にきています。今後とも教育プログラムの改善に努め、社会に役立つ技術者、世界で活躍する技術者の育成に努めていきたいと考えています。

高志会会員の皆様の皆様のご支援を引き続きお願いいたします。

ロボコン

高専ロボコン参加報告 —「会場を沸かすも」全国大会出場ならず—

ロボティクス部顧問

電子制御工学科（機械14回卒） 外川 一 仁

今年の高専ロボコン地区大会は、10月2日に山梨県大月市で開催されました。今年度のテーマは「ロボ・ボウル」と言って、アメリカン・フットボールをイメージした競技でした。製作ロボットは2台で、オフENSEの2足歩行ロボットは10数メートル先に立つ学生に向かってアメフトボールを投げてタッチダウンパスを目指し、ディフェンスのロボットは、パスをカットしてインターセプトをすると言うルールです。

大会は関東甲信越では毎年10高専20チームが出場し、このうち優勝1チームと審査員推薦の3チーム、計4校の高専が全国大会に出場します。本校からは、ロボティクス部から「もしアメ」と「Phoenix」の2チームが出場し健闘しましたが、一歩及ばず全国出場を果たすことはできませんでした。しかしながら、両チームともに奮闘し、ロボットのアイデア・パフォーマンスで会場を沸かせてくれました。チーム「もしアメ」のディフェンス・ロボットは大会で唯一インターセプトを成功させたロボットであり、決勝戦前のエキシビジョンマッチ出場にも選ばれました。イレギュラーで天井に当り跳ね返ってきたボールを見事にキャッチし、技術力の高さをアピールしました。チーム「Phoenix」のディフェンス・ロボットは、ボールを打ち落とすという非常にユニークなアイデアを持ったロボットで、試合後のパフォーマンス披露で飛んで来たボールのカットに成功し、会場を沸かせました。

今回、全国大会に残れませんでした。出場を勝ち取った年には、同窓会の皆さまから多大な応援・結成旅費をご援助いただいています。これはロボット製作の学生はもちろん、ロボティクス部の顧問をしている私たちにとって、大変な励みになっております。日頃のご援助に感謝し、来年は大応援団と共に国技館に行きたいと願っています。こころより御礼申し上げます。

ここ2回ほど全国行きを逃した原因のひとつは、チームが低年齢化してしまったことがあると思います。ご承知の通り、現在、長岡高専の編入進学率は8割にせまる状況です。上級生にとって専門科目の修得は大切なことであり、授業単位の取得を気にせず、四六時中ロボコンに思いを馳せて部活動に没頭す



るには、相当な覚悟を持ち、勉強もスマートにこなさなければなりません。辞退は無理からぬことですが、現実、出場希望の学生は3年生までが主となってしまいます。洗練された動きができる2足歩行ロボットの設計・開発するのは、いくら気持ちがあっても酷なことになります。こころの技術が優勝チームと差が広がっているようです。

創設期の長岡高専生は自主性に富んだ積極的な人物が多くいて、学校にはエネルギッシュな雰囲気が満ちていたと当時勤務されていた先生方から何度もお聞きしました。ロボティクス部を立ち上げてから今日までの10数年間、顧問一同はこの精神の実践を心がけて来ました。アイデアの捻出から、チーム編成、開発・製作までほとんどすべてを学生たちが運営していると話しても、信じないロボコン関係者がたくさんいらっしゃるほどです。この精神はこれからも維持して行きたいと念じていますが、一方で、学生の個々のがんばりが全体に生かされるようにしなければなりません。チームの低年齢化を克服するためには一時、顧問教員が学生をリードする必要があり、チーム全体を見渡したマネジメントの必要性があると強く感じています。なでしこジャパンのようなまとまりのあるプロジェクトが実現できれば理想でしょう。

来年度、高専ロボコンは開催25回になります。四半世紀の区切りとなる記念すべき大会で、印象に残るロボットで出場して長岡高専の名を残したいものです。そのためには、同窓生の皆さまのご理解とご協力が大きな力となります。今後ともよろしくお願い致します。

学生海外派遣研修 2010

平成22年度学生海外派遣研修 報告(オーストラリア)

一般教育科 田中 真由美

平成22年度学生海外派遣研修が8月17日～8月24日にオーストラリアで行われました。この研修は、英語の積極的な使用や異文化の体験を通して国際的な視野を身につけることを目的としたもので、現地校の訪問やホームステイが主な研修内容です。今年度参加した学生は本科1年生から専攻科1生までの6名で、2名の教員が引率しました。

今年度はゴールドコーストにあるキープラパーク州立高校を2日間訪問し、授業への参加や英語によるプレゼンテーション等を通して、現地の学生や教員との交流を果たしました。ホームステイは、昨年度

同様、2人一組、あるいは1人での滞在でしたが、滞在期間は5泊6日と昨年度よりも2日長く、学生たちは英語でコミュニケーションをとりながら、ホストファミリーと楽しい時間を過ごしました。

今回で2回目となるオーストラリア研修は、昨年度同様、充実したものとなりました。今後もこの研修が続き、多くの学生が参加することを期待します。



学生海外研修(マレーシア)へ 行ってきました！

物質工学科(電気28回卒) 荒木 秀明

平成22年度学生海外派遣研修(マレーシア:平成22年8月19日(木)～8月25日(水))は、本科1年生から5年生の男女合わせて9名の参加学生と引率教員2名の計11名で行われました。本校マレーシア留学生たちの母校であるマラ工科大学INTEC高専予備教育コース(KTJ)を訪問し、来年度、日本へ留学する予定の学生たちとレゴロボットを組み立てや駆動プログラムの作成を共同で行うことで短い期間でしたが交流を深めることができました。レゴロボットを使った障害物レースは6チーム中5チームが完走し、白熱したタイム争いとなりました。また、ものづくりの現場を知るた

め、日系企業の現地工場も見学させていただきました。海外で活躍されている高専OBの方を含め、たくさんの技術者の方々と直接お話をうかがうことができ、ものづくりに対する姿勢や海外生活の様子など知ることができ、各自の将来について考える良い機会になったと思います。熱帯森林トレッキングやスズ工芸体験、ロウケツ染め体験などを通じて豊かな緑と都市が共存するクアラルンプールの風土や文化について理解を深めることができました。この研修を通じて、留学生たちの母国の様子を知るとともに良き友人たちに巡り会うことができました。今後も今回得た経験や出会いを大切にしたいと思います。



ものづくり実習 in ベトナム

電気電子システム工学科
(機械16回卒) 中村 奨

平成22年度ものづくり海外学生派遣研修として、9月18日から9月25日までの日程で、学生5名、教員3名の計8名でベトナムに行ってきました。研修日初日は、日本精機ハノイ工場を訪問し、海外で仕事をするうえでの面白さや苦労話をお聞きしてきました。その後、ハノイ国家大学を訪問し、ものづくり実習を実施しました。1班あたり1名の日本人学生と3名のベトナム人学生となるように班分けをし、レゴブロックによるロボット製作ならびにマイコンによるLEDの制御を実施しました。日本人学生はベトナム語をしゃべれませんし、ベトナム人学生は日本

語をしゃべれませんので、必然的に会話は英語でということになります。研修の後半ではベトナムの古都であるフエに移動しました。フエは、ベトナム最後の王朝、阮(グエン)朝の都がおかれていたことで知られています。郊外にある歴代の皇帝廟や寺院などを見学してきました。短期間ではありましたが、派遣学生は日本とベトナムの文化の違いを感じるとともに、コミュニケーションの大切さ・難しさを痛感したことを思います。



卒業して34年、 変わるもの変わらないもの

株式会社ジェスクホリウチ

(電気11回卒) 今井 秀夫



卒業から転職も無く長岡に住み着いてしまった私は、今年の夏も変わらず夜空に大輪の花火の咲き乱れを見ることが出来ました。高専生と言われた頃には、カップアイス（ピンク着色のシャーベット）の売り子として見上げた花火でしたが、今年は孫に団扇を扇ぎながら見る花火でした。

また、長岡花火は『祈りの花火』と呼ばれております。従って、今年も例年通りの開催であり大地震、水害の犠牲者の方々へ黙祷を捧げた上での打ち上げ開始となりました。改めて、お亡くなりになられた方々へのご冥福をお祈りすると共に被災者の皆様へのお見舞いを申し上げます。

さて、卒業後、主に「電源・計測・制御」の営業を長らく務めて参りました。夫々は、アクチュエーターを如何に動かし仕事をさせるかの要素です。アクチュエーターの代表がモーターであることは、今も昔も変わりません。電灯が闇を無くしたこと、モーターがモノづくりの効率を飛躍的に向上させたことは論を待たないところです。我々の時代の高専生にとっては、「モーター」と言えば誘導電動機でした。実習・実験を通して「モーター」の原理を良く(?)勉強したものでした。そして現在の会社に就職した後は、勉強対象から販売対象へと変わりましたが、付き合いは変わりませんでした。工作機械、木工機械、搬送機械、食品機械、送風・換気、ポンプなど色々なお客様へ販売させて頂きました。しかし現在は、省エネ・回転制御の要求条件から同期モーターに、位置決め精度の要求条件からサーボモーターへと多くの市場でその位置づけは下がり、更に国内市場の縮小により重電5社（現在は死語?）と言われるメーカーで、「モーター」を自社でフルラインアップ且つ製造するメーカーは皆無となりました。世の変わり様を「モーター」からも感じるところです。

私には、入学の同級生と卒業の同級生がいます。毎年正月3日に入学、5月3日に卒業の同級会と1年に2度も当時に戻ることが出来ます。顔を合わせると互いに、髪の色と有無、顔のしわ、風貌の変化に驚き笑いあいますが、性格は全く変わっていないことに安心を覚えます。いつまでも同級会への参加が出来るよう皆さん変わらず健康に生きましょ！ね。

高専に感謝！

日本精機株式会社

(工化23回卒) 中原 剛



高専に入学したのが、まだ元号が昭和の昭和59年。卒業したのが、平成に変わった最初の年、平成元年。高専を卒業してからの時間は、平成と共に時を刻んできた。卒業してから20年以上も経つと、中越地震以後、新しく生まれ変わった高専で、当時の面影を残すものと言え、第一体育

館入り口の鉄扉ぐらいか？高専時代は、当時の工業化学科だったので、「化学」の専門知識を学ぶ機会が多かった。化学科といえば、「白衣を着て実験」と言うくらい（言っていない、聞いてない?）、日々実験に追われた毎日であった。そのせいか、職についてもパソコンに向かってるより、現場で実験(?)している方が、落ち着く。勤め先は、車載関連の製品が主要製品の会社であるが、入社当時は、幸運なことに半導体のプロセス開発に従事することができた。そこでも、実験好きが功を奏したのか、毎日のように残業してまで条件出しに精を出した。材料選定やプロセスの条件検討、試作品の評価と、自分の手で作ったもの、自分で考えたものと戯れている時間は、仕事と言うよりも「趣味」に近いものがあつたのかもしれない。そんなプロジェクトが数年続き、自分達の開発した製品が世の中に出た。自分が開発に携わった製品が、世の中に出て、少しでも「世のため人のため」になっているとしたら、これ幸い。その後しばらく半導体プロセス絡みの仕事を行っていたが、ある年頃を過ぎると、パソコンに向かう時間が多くなってきた。自分で手を動かさないもどかしさと、後輩を育ててはいけない親心が錯綜した時期もあった。今は、再び半導体プロセスの開発を行える環境になってきた。昔に比べて、材料やプロセスに関する知識が増え、経験値も増えたことで、様々な知恵もついてきた。そんな知恵をこれからも「世のため人のため」に少しでも役立てたらと思う。こんな自分のベースを作ってくれたところが高専であったと思う。高専と言う存在に感謝しながら、生涯現役を真っ当したいものだ。

退職のことば H21年退職

感謝!!!



学生課

関 勝 美

昭和44年4月に東京農工大学から本校に転勤してきて、以来、40年が過ぎました。ここまでやって来られたのも偏に皆様方々をはじめとして家族に支えられたおかげと深く感謝しております。

各科(課)対抗ソフトボール大会やバドミントン大会、夕方5時を過ぎてからの“飲み”ニュケーションなどなど、思い出は数え切れないほどありますが、やはり、2004年の新潟県中越地震での体験は、生涯忘れることのできないものでした。

この40年間の様々な人との出会いと繋がりが私の宝となっております。心から厚くお礼申し上げます。長い間、本当にお世話になりました。ありがとうございました。

最後になりましたが、伝統ある長岡高専の益々の発展を心より祈っております。

辛くも楽しい♪♪…思い出と共に



環境都市工学科

吉 田 茂

昭和46年に土木工学科にまいりましたが、土木一回生が4年生になったところでした。学生さんとは、兄弟分のような感覚で接することが出来ました。当時にはあった合宿研修や修学旅行では、学生とほとんど同一行動を取ることが出来、自分自身にとっても楽しいものでした。何をやってはいけないというものがなく、皆んな自由にのびのびとかつ節度をもってやっていたように思います。しかし、年月を経るにつれて、合宿研修がなくなるなど、昔にはあった行事が、今は無くなったものが幾つかあり、学生との親密な交流の機会が減ったのが少々残念です。とはいえ、これまで立派な学生さんに接することができたこと、並びに教職員の皆様方の支えがあったことで、ここまでやってこれたということを実感しています。教職員の皆様方のご努力で、今後も良い学生さんがたくさん集ってきて、益々すばらしい高専へと発展できることを期待しています。長い間お世話になりほんとうに有難うございました。

さようなら高志台



事務部

桐 澤 行 雄

同世代の学生が奮闘している大学紛争まただ中。長岡市立図書館が建っている場所にあった新潟大学工学部に採用された。その後、長岡技大の創設に携わった。各地から集った精鋭の教職員と新しい構想を求め昼夜

なく議論を交わし、創り出す喜びを味わった。既存の大学とは違った新しい大学ができた。それから二十年が経過した頃、技大と連関する木更津高専に異動になった。その後、三大学を経て、再び技大と連関する長岡高専に二年間お世話になり、定年を迎えようとしています。

職場は幾度となく変わったが、何等かの形で高専と関わりながら勤められたことはうれしく思っています。

法人化されて五年が経とうとしている長岡高専、教職員一人一人に变革する意識が強く求められているように思われます。

最後に長岡高専の益々の御発展と皆様方のご健康を祈念いたします。

退職を迎えて



電気電子システム工学科

小 林 和 久

京都の古い師によると、本来、わたしは一つの所に定住しないで、彷徨う運命にあるのだそうです。35年の長きにわたり長岡の地に住み着いていたのは、よほど何か強い力によるものだそうです。いろいろと考えさせられることがありますが、四季折々の美しい自然、いつも刺激を与えてくれた学生たちがその力の一つではなかったかと思っています。まもなく退職を迎える今日この頃、何かに取り憑かれたように、放浪癖が甦ってきました。これまで出会った多くの学生そして教職員の皆様のご支援に感謝してお別れといたします。

定年退職のご挨拶



電子制御工学科

反 町 嘉 夫

平成4年4月に本校へ転任後、早や17年間が経過し、このたび定年退職することになりました。思い起こせば、赴任直後の改組された電子制御科の立上げ、学生寮の管理運営、専攻科の立上げ、2回のクラス担任、数度のJICA国際協力事業等、多

くの経験をさせて頂きました。またこの間124名の卒業生と10名の専攻科生の研究指導、自己復帰形過電流保護素子や自己温度制御面状発熱体の研究を実用化まで行うことができました。ひとえに本校教職員の皆様方のご指導ご協力の賜物と感謝しております。また常に若い学生諸君と接するという環境が、私をここまで何とか持ちこたえさせてくれたものと有難く思っております。退職後は学生に代わって6人となった孫の子守・幼児教育の手伝いを当面行う予定です。最後に本校の益々の発展と皆様方のご活躍を心からお祈り致します。永い間、本当に有難うございました。心から感謝申し上げます。

退職のことば H22年退職

感謝

一般教育科

緒方和男



「国境の長いトンネルを抜けるとそこは雪国だった」新幹線開通前の昭和47年春、車中からその素晴らしい風景に感動しながら赴任したことを昨日のこのように憶えている。

あれからの私の38年間はまさに柔道一直線だった。全国大会常連校となるも、今一步のところでは優勝は出来なかった。結果を急ぐ余り無理な指導もした。その頃の学生には申し訳なく思っている。勝たせたい気持ちが空回りして、自信を無くし諦めかけた時期もあった。そんな頃、柔友会（OB会）が監督就任20年を盛大に祝ってくれたことがある。皆の気持ちに応えるには優勝しかないとして5年計画で取り組み、部員のほとんどが高専に入ってから柔道を始めた選手達だったが、平成9年には念願の全国制覇を成し遂げてくれた。高専の大会以外でも数々の大会に出場し、学生の持つ可能性の素晴らしさや夢と感動を与えてもらった。

ただただ学生に感謝である。



雪を求めて

環境都市工学科

佐藤和秀



1977年(昭和52年)より33年間の思い出の一端を述べてみたいと思います。新任早々、田校長から要請された雪氷センターが5年越しにようやく建設されたこと、本校初めての科研費をもらったけれど預金利子の1円単位をゼロにするのに苦労したこと、橋本先生とバスケットボール部の全国優勝をした

こと、科内の反対のなか大戸校長が南極観測隊に参加させて下さったこと、姉妹校の中国黒龍江水利専科学校と中国大陸東北部の雪氷災害学術調査共同研究を10回以上もできたこと、そのほか専門の雪氷研究ではアラスカ、スピッツベルゲン、南米パタゴニア、中国、モンゴル、ネパールの氷河研究に参加できたこと、それにもまして雪を通して「自然と人間の接点」を求めながら、多くの卒業研究生と教職員の皆様との出会いと交流に感謝しつつ、最後に、長岡高専の発展のために、よりアットホームな環境が構築されていくことを祈念します。幼なじみで同僚の佐藤國雄先生と共にこの日を迎えられないことが残念でなりません。

さようなら高志台

機械工学科（機械1回卒）

本間 晃



昭和37年4月20日、本校一期生として入学しました。38年1月、2度目の仮住まいである古い木造校舎で豪雪に見舞われ、教職員、学生全員で校舎の雪下ろしをしたこと、39年6月、新潟地震で2号館1階の教室を窓から飛び出し、大きく揺れる煙突を不安な気持ちで見上げたことなどを懐かしく思

い出します。

卒業後、9年間民間会社に勤務した後、母校に奉職することになり、以来34年、退職の日を迎えました。

この間、授業、クラス担任、剣道部の活動等を通じて、多くの学生と接し、多くの思い出を共有できたことが私にとって大きな財産であると考えております。

中越地震という未曾有の災害に直面しながらも、一新した校舎と充実した設備を手に入れた長岡高専の、今後ますますの発展を祈念致します。



さようなら高志台

環境都市工学科

尾上 篤生



本校に御世話になって、10年。当初は監獄もどき(?)の暗く汚れた校舎と雪と灰色の空に馴染めなかった。それがやがて、若い学生達との交流、自由な研究、美しい自然への感謝となった。

中越地震では、風雪吹き荒ぶ壊れた旧3号館で、震えながら解析に取り組む学生達や、小千谷や山古志で雪を掻き分けつつ、測量や試料サンプリングに奔走した学生達との協業。中越沖地震では、被害調査や測量やサウンディング、水位計設置と計測などで苦労を分かち合った技術スタッフや学生達。情報交換や復旧に関する議論で深めた地域の人々と関わり。高志台および中越と新潟各地で学んだものは、市塵としても技術者としても貴重な宝であった。

高志台から望む越後平野と弥彦山の景観は、一新なった綺麗な校舎群とともに、去り難い思いを沸かせて止まない。

すばらしい高志台

校長

高田 孝次



長岡高専を去るにあたり、まず、8年間の在任中様々な面で協力や支援を惜しまれなかった全ての教職員の皆様そして学生諸君に心から感謝を申し上げます。高専の思い出を記すとなりますといくら紙面をもらっても足りないような気がします。そこで、気障

ではありますが在任中にお世話になった(しばしば心の中で反復した)三つの言葉を紹介して思い出にかえさせてもらいます。

- ・和を以て貴しとなす：ご存じのように、これは聖徳太子「十七条の憲法」の第一条の冒頭にある言葉です。確か、高校か中学のとき学校で教わり、なぜか気に入ったのを覚えています。いま振り返ってみますと、いつの間にかこの言葉が私にとっての座右の銘となっていたように思います。

- ・志を立つること高からざれば、則ち其の学皆常人の事のみ：高専に来てすぐに本校キャンパスが「高志台」と名付けられていることを知り、この言葉を連想しました。志を高く立てないと、その人の学問も平凡なものになってしまう(諸橋轍次著、中国古典名言事典)という意味で、中国の古典の一つ「小学」の一節です。以来、何度か学生にも紹介して勉学の意義を話し合ったことが楽しい記憶の一つです。
- ・楽天者寿：校長室の掛け軸に大書されている言葉です。相当前から掲げられていたようですが、その由来は残念ながら判明しませんでした。私は勝手に“物事に楽天的に対処できれば幸福で長生きできますよ”と解釈し、この言葉に幾度も勇気をもらいました。この言葉にはこれからもお世話になりたいと思っています。今年、創立50周年を迎える長岡高専。輝かしい歴史を基に、次の50年に向けてさらなる発展の一步を踏み出してください。皆様のご活躍を心から祈念いたします。

機械工学科

小林 訓



私は昭和48年4月1日より長岡高専に38年間勤務しました。振り返ってみますと若い頃は不安なことが多かったです。そんな中で、高志釣魚会に参加して川釣りを楽しみました。さらに、学級担任を行った時は学生と親しく接することが

できたので合宿研修や見学旅行を容易に行うことができました。能登青年の家での研修や茨城県鹿嶋の東京電力火力発電所の見学が特に印象に残っています。中年以降には学校の将来計画にも参加させていただきました。その1つに機械工学科の学科改組があり、連日の会議の結果、現在の機械工学科と電子制御工学科ができました。次に、専攻科の設立計画に参加させていただきました。事務部の方々と計画案を文部省や学位授与機構に説明に行きました。その後、私は何回か病気になりまして大変御迷惑をおかけしました。ありがとうございました。最後に長岡高専の御発展を祈念します。

教育研究技術支援センター

白井 岩夫



初勤務以来約40年が経過し、ここに定年退職という区切りをむかえました。

自動車通勤をしておりますが、計算しますと通勤距離が延べ50万キロとなります。これは優に月まで到達できる距離となります。妙な例でしたが、あまりの時の長さに呆然とする想いです。

思えば赴任当時周りにはほとんど何もなく、眺める景色は一面田んぼだらけでした。

今は、住宅が立ち並び、学校も3号館、6号館等が建ちずいぶん立派となりました。

さて、そのような長きにわたり、電気工学分野で、大は送電線の実験、小はトランジスタの特性と主に学生実験に携わってきました。当初に比べ分野も多彩となり変化してきました。特にコンピュータの普及と、ICの発明が特筆すべき事柄と思います。

関係の皆様への感謝とともに、教育に多少なりとも貢献できていたとしたなら幸いです。

教員の異動 (平成21年3月～平成23年10月)

【退職】	【新任】
<p>(平成21年3月31日付け)</p> <p>小林 和久 電気電子システム工学科教授…………… 定年退職 反町 嘉夫 電子制御工学科教授…………… 定年退職 岡田 清 電子制御工学科教授…………… 定年退職 廣川 純夫 機械工学科嘱託教授…………… 再雇用期間終了退職 吉田 茂 環境都市工学科嘱託教授…………… 再雇用期間終了退職 八田 茂実 環境都市工学科准教授…………… 配置換(苫小牧高専へ)</p> <p>(平成21年6月1日付け)</p> <p>前川 直也 一般教育科助教…………… 配置換(徳山高専へ)</p> <p>(平成22年3月31日付け)</p> <p>緒方 和男 一般教育科教授…………… 定年退職 本間 晃 機械工学科教授…………… 定年退職 佐藤 和秀 環境都市工学科教授…………… 定年退職 尾上 篤生 環境都市工学科教授…………… 定年退職 宮崎 敏昌 電気電子システム工学科准教授 ……………… 退職(長岡技大へ) 大坪 茂 電気電子システム工学科准教授 ……………… 配置換(石川高専へ)</p> <p>(平成23年3月31日付け)</p> <p>高田 孝次 校長…………… 定年退職 小林 訓 機械工学科教授…………… 退職 高橋 智恵 一般教育科講師…………… 任期満了退職 尾上 篤生 環境都市工学科特任教授…………… 雇用期間満了退職 岡田 清 電子制御工学科嘱託教授…………… 雇用期間満了退職 小川 伸夫 電子制御工学科准教授…………… 配置換(鳥羽商船高専へ) 村上 能規 物質工学科准教授…………… 配置換(八戸高専へ)</p>	<p>(平成21年4月1日付け)</p> <p>太刀川信一 電子制御工学科教授…………… 採用 村上 能規 物質工学科准教授…………… 採用 村上 祐貴 環境都市工学科助教…………… 採用 大坪 茂 電気電子システム工学科准教授 ……………… 配置換(石川高専から) 小川 伸夫 電子制御工学科准教授…………… 配置換(鳥羽商船高専から) 岡田 清 電子制御工学科嘱託教授…………… 再雇用</p> <p>(平成21年9月1日付け)</p> <p>田原 喜宏 一般教育科助教…………… 採用 横山 剛士 一般教育科助教…………… 採用</p> <p>(平成22年4月1日付け)</p> <p>阿部 高弘 一般教育科教授…………… 採用 皆川 正寛 電子制御工学科講師…………… 採用 床井 良徳 電気電子システム工学科助教…………… 採用 佐藤 和秀 環境都市工学科特任教授…………… 再雇用 尾上 篤生 環境都市工学科特任教授…………… 再雇用</p> <p>(平成22年12月15日付け)</p> <p>高橋 智恵 一般教育科講師…………… 採用</p> <p>(平成23年4月1日付け)</p> <p>渡邊 和忠 校長…………… 採用 宮寄 靖大 環境都市工学科助教…………… 採用 山本 隆広 環境都市工学科助教…………… 採用</p>

学科生及び専攻科生の進路状況

平成20年度 平成21年3月現在

■学 科

学科名	卒業者数	進学者数	就職者数		その他
			県内	県外	
機 械 工 学 科	42	25	7	8	2
電気電子システム工学科	45	31	1	10	3
電子制御工学科	35	28	1	3	3
物 質 工 学 科	40	39	0	1	0
環 境 都 市 工 学 科	42	26	4	11	1
計	204	149	13	33	9

■専 攻 科

専攻名	修了者数	進学者数	就職者数		その他
			県内	県外	
電子機械システム工学専攻	21	10	7	4	0
物 質 工 学 専 攻	8	3	2	3	0
環 境 都 市 工 学 専 攻	11	5	3	2	1
計	40	18	12	9	1

平成21年度 平成22年3月現在

■学 科

学科名	卒業者数	進学者数	就職者数		その他
			県内	県外	
機 械 工 学 科	42	25	7	9	1
電気電子システム工学科	37	23	5	8	1
電子制御工学科	42	37	1	3	1
物 質 工 学 科	31	25	4	2	0
環 境 都 市 工 学 科	37	27	3	7	0
計	189	137	20	29	3

■専 攻 科

専攻名	修了者数	進学者数	就職者数		その他
			県内	県外	
電子機械システム工学専攻	19	9	5	5	0
物 質 工 学 専 攻	8	2	1	5	0
環 境 都 市 工 学 専 攻	8	3	3	1	1
計	35	14	9	11	1



平成22年度 平成23年3月現在

■学 科

学科名	卒業者数	進学者数	就職者数		その他
			県内	県外	
機 械 工 学 科	39	24	7	7	1
電気電子システム工学科	41	26	7	8	0
電子制御工学科	32	27	3	1	1
物 質 工 学 科	33	25	3	5	0
環 境 都 市 工 学 科	35	28	4	3	0
計	180	130	24	24	2

■専 攻 科

専攻名	修了者数	進学者数	就職者数		その他
			県内	県外	
電子機械システム工学専攻	15	7	5	3	0
物 質 工 学 専 攻	8	3	1	4	0
環 境 都 市 工 学 専 攻	8	1	2	4	1
計	31	11	8	11	1

同窓会長賞受賞者紹介

■平成20年度同窓会会長賞 受賞者

	氏 名	学科	所属	理 由
1	山崎 孝子	Ci	柔道部	H17～20年 全国高専体育大会出場 H17年 全国高専体育大会52kg級第3位 H20年 全日本学生柔道優勝大会北信越代表
2	岩淵 陽佑	M		H17年 全国高専体育大会第3位 (マネージャー)
3	小林 豊和	Ci	バスケットボール部	H16年 関東信越地区大会準優勝 H17～20年 関東信越地区大会優勝
4	磯部 王郎	MB		H16～20年 全国高専体育出場 H19年 全国高専体育第3位
5	中村 浩祐	EE	陸上部	H20年 関東信越地区大会5000M優勝 H20年 全国高専体育大会5000M第8位 H20年 全日本学生ハーフマラソン大会出場
6	古塩 元幸	Ec	ロボティクス部	H16, 18, 20年 高専ロボコン全国大会出場 H20年 高専ロボコン全国大会第3位 H19年 部長
7	吉田 健太	Ec		H16, 18, 20年 高専ロボコン全国大会出場 H20年 高専ロボコン全国大会第3位
8	一野瀬翔吾	Ec		
9	佐藤 達也	MB	化学部	全国高校化学グランプリ2006 銅賞
10	小出 博仁	MB		
11	櫻井 裕基	Ec	アイスホッケー	H20年 長野国体 新潟県代表

■平成21年度同窓会会長賞 受賞者

	氏 名	学科	所属	理 由
1	石津謙太郎	Ec	柔道部	主将、H18～21年 全国大会団体出場、H19, 20年 全国大会個人出場等
2	小池 惇平			H17～21年 全国大会団体出場、H17年 全国3位入賞団体メンバー等
3	小林 雄太			主務、H19年 全国大会出場コーチ等
4	若月 智秋	EE		H20年 全日本学生団体女子3位入賞、H18～21年 全国大会出場、 H18～20年 全国大会3位入賞等
5	鈴木 海太	M	バスケットボール部	キャプテン、H17～21年 地区五連覇 (特別表彰) ・全国大会出場、 H19年 全国3位入賞、H19, 20年 中日本大会優勝等
6	高橋 輝			H17～21年 地区五連覇 (特別表彰) ・全国大会出場、 H19年 全国3位入賞、H19, 20年 中日本大会優勝等
7	村山 洋樹			
8	佐藤 亮二	MB		同上、5年間登録マネージャーとして貢献
9	小林 岳	Ci		
10	恩田 穰			
11	平井 瑠美			
12	佐藤 雄一	M	ロボティクス部	H20年 地区準優勝、全国4位等
13	土田 佳裕	Ec		H20年 部長、H18, 20, 21年 全国大会出場

■平成22年度同窓会会長賞 受賞者

	氏名	学科	所属	理由
1	金井 信和	Ci	柔道部	H18～22年 5年間全国高専体育大会出場 H19～22年 関東信越高専大会個人(90kg) 優勝 4連覇 H19～22年 4年間全国高専大会出場(90kg) H22年 全国高専大会 5位(90kg)
2	長谷川達也	Ec	陸上部	H21年 4×400mリレー 全国高専大会 4位メンバー H20年 4×400mリレー 全国高専大会出場
3	三川 幸宏	EE		H22年 男子110mH 全国大会 5位 H21年 男子110mH 全国大会 6位 H20年 男子110mH 全国大会 8位 H21年 男子110mH 関東信越地区優勝
4	高野 滉一	MB		H22年 4×100m リレー 全国高専大会 6位メンバー H21年 4×100m リレー 全国高専大会 4位メンバー H20年 男子200m 全国高専大会出場
5	横山 圭佑			H21年 4×100m リレー 全国高専大会 4位メンバー H20年 4×400m リレー 全国高専大会出場
6	遠藤 拓馬	M		ロボティクス部 H21年 高専ロボコン 全国大会出場 ダンシング・カップル H20年 高専ロボコン 全国大会出場 生命大進化 H18年 高専ロボコン 全国大会出場 ふるさと自慢特急便
7	田辺 慎哉			
8	平澤 勇気			
9	佐野 佑介	EE		
10	吉原 謙	Ec		
11	石井 貴弥			
12	坂井 哲也			
13	廣橋 義寛			

体育大会入賞者

平成21年度 関東信越地区大会(全国大会出場のみ)
および全国大会結果(上位入賞者)

- ◎陸上
 - 男子100m 優勝 阿部 哲雄
 - 男子110mH 2位 須藤 大翔
 - 男子110mH 3位 三川 幸宏
 - 男子走高跳 優勝 阿部 哲雄
 - 男子円盤投 3位 梅澤 将充
 - 男子4×100mR 優勝 横山・須藤・高野・阿部
- ◎水泳
 - 男子800m自由形 優勝 南 裕也
 - 男子100m平泳ぎ 2位 加島 徳人
 - 男子100m背泳ぎ 優勝 山崎 脩道
 - 女子100m自由形 優勝 川津 風花
 - 女子50m平泳ぎ 優勝 川津 風花
- ◎柔道
 - 男子団体 準優勝
 - 男子90kg級 優勝 金井 信和
 - 男子73kg級 2位 井嶋 克爾
 - 女子48kg級 優勝 小林 千玲
 - 女子63kg級 優勝 若月 智秋
- ◎剣道
 - 団体 優勝
- ◎バスケットボール
 - 優勝
- ◎ハンドボール
 - 優勝

第44回全国高等専門学校体育大会
(上位入賞者)

- ◎陸上
 - 男子110mH 3位 須藤 大翔
 - 男子110mH 7位 三川 幸宏
 - 男子4×100mR 4位 安達・須藤・高野・阿部

平成22年度 関東信越地区大会(全国大会出場のみ)
および全国大会結果(上位入賞者)

- ◎陸上
 - 男子100m 3位 阿部 哲雄
 - 男子200m 優勝 須藤 大翔
 - 男子400m 2位 池田真太郎
 - 男子110mH 優勝 須藤 大翔
 - 男子110mH 3位 三川 幸宏
 - 男子走高跳 2位 阿部 哲雄
 - 男子三段跳 3位 前田 一樹
 - 男子円盤投 2位 梅澤 将充
- ◎水泳
 - 男子100m背泳ぎ 3位 中村 匡考
 - 男子200m平泳ぎ 3位 加島 徳人
 - 男子800m自由形 優勝 南 裕也
 - 女子100m自由形 2位 川津 風花
- ◎硬式テニス
 - 団体 2位
- ◎柔道
 - 男子団体 優勝
 - 男子90kg級 優勝 金井 信和
 - 男子90kg級 2位 渡邊裕太郎
 - 女子52kg級 2位 小林 千玲
- ◎剣道
 - 男子個人 3位 山崎 周

第45回全国高等専門学校体育大会
(上位入賞者)

- ◎陸上
 - 男子110mH 優勝 須藤 大翔
 - 男子110mH 5位 三川 幸宏
 - 男子200m 7位 須藤 大翔
- ◎水泳
 - 男子800m自由形 7位 南 裕也

平成23年度 関東信越地区大会(全国大会出場のみ)
および全国大会結果(上位入賞者)

- ◎野球 2位
- ◎バドミントン
 - 女子団体 2位
 - 女子S 3位 金井 綾香
- ◎柔道
 - 男子団体 2位
 - 個人男子60kg級 優勝 清水 隆史
 - 個人女子52kg級 2位 小林 千玲
- ◎ハンドボール 2位
- ◎水泳
 - 男子100m背泳ぎ 優勝 山崎 脩道
 - 3位 石川 亮
 - 男子200m平泳ぎ 3位 西山 真史
 - 男子400m自由形 3位 南 裕也
 - 男子800m自由形 優勝 南 裕也
 - 3位 岡 伸哉
- ◎陸上
 - 男子4×400mリレー 2位 高野 駿平・須藤 諒真・高野 諒真・池田 真太郎
 - 男子400m 2位 池田真太郎
 - 男子110mハードル 優勝 須藤 大翔
 - 男子三段跳び 優勝 前田 一樹

第46回全国高等専門学校体育大会
(上位入賞者)

- ◎陸上
 - 男子4×400mリレー 7位 池田・須藤・高野 諒真・高野 駿平・須藤 大翔
 - 男子110mハードル 優勝 須藤 大翔
 - 男子200m 6位 須藤 大翔
- ◎水泳
 - 男子400m自由形 7位 南 裕也
 - 男子800m自由形 5位 南 裕也
 - 8位 岡 伸哉



平成20年度決算報告

収入の部

(単位：円)

摘要	予 算	決 算	備 考
前年度繰越金	1,502,700	1,502,700	
会 費	3,105,000	3,163,740	@15,000 × 211人分(4回)
利 息	10,000	4,496	
名簿代金	-	3,000	@3,000 × 1冊
寄 付 金	-	65,126	機械M1 卒業生
雑 収 入	-	0	
合 計	4,617,700	4,739,062	

支出の部

摘要	予 算	決 算	備 考
会 報 発行費	1,000,000	940,258	
終身会費 返 還 費	-	190,000	9月3日10,000 (19人)
事 務 費	200,000	2,204	
旅費・日当	200,000	73,000	
会 議 費	100,000	8,800	
卒業証書 ファイル	170,000	169,978	
通 信 費	30,000	10,900	
支部結成 補助費	20,000	0	
支 部 補助費	100,000	0	
人 件 費	200,000	80,000	H21.3.11役員会
同 窓 会 長 賞	100,000	81,200	受賞者10名
予 備 費	350,000	341,000	香典、事務へのお礼、ロボコンへの補助
合 計	2,470,000	1,897,340	
次年度繰越金	2,147,700	2,841,722	
累 計	4,617,700	4,739,062	

資産内訳 (H21.3.11)

	金融機関	支店	口座	残高
通常会計用	大光銀行	中沢	普通	2,718,928
	郵貯銀行	栖吉	普通	101,078
	現金			21,716
基金積立用	大光銀行	中沢	定額	10,000,000
	北越銀行	本店	定期	3,149,249
	郵貯銀行	中沢	定期	8,105,984
	大光銀行	中沢	普通	2,802,271
合計				26,899,226

平成21年度決算報告

収入の部

(単位：円)

摘要	予 算	決 算	備 考
前年度繰越金	2,841,722	2,841,722	
会 費	3,105,000	3,105,000	@15,000 × 207人分(3回)
利 息	-	1,389	
名簿代金	-	6,000	@3,000 × 2冊
寄 付 金	-	-	
雑 収 入	-	-	
合 計	5,946,722	5,954,111	

支出の部

摘要	予 算	決 算	備 考
総 補 助 費	1,000,000	1,176,039	11月7日新潟東映ホテル
終身会費 返 還 費	-	270,000	7月22日10,000 (27人)
事 務 費	200,000	1,889	振込み手数料等
旅費・日当	200,000	150,900	理事総会、常任理事会、連合同窓会
会 議 費	100,000	15,170	理事総会
卒業証書 ファイル	170,000	174,910	卒業式208冊同窓会名入り
通 信 費	30,000	16,090	名簿送料等
支部結成 補助費	20,000	0	
支 部 補助費	100,000	13,500	小千谷支部
人 件 費	200,000	90,000	H22.3.9役員会にて
同 窓 会 長 賞	110,000	80,061	受賞者11名
予 備 費	350,000	415,000	香典、事務へのお礼、ロボコン応援への補助
合 計	2,480,000	2,403,559	
次年度繰越金	3,466,722	3,550,552	
累 計	5,946,722	5,954,111	

資産内訳 (H22.3.9)

	金融機関	支店	口座	残高
通常会計用	大光銀行	中沢	普通	3,432,263
	郵貯銀行	栖吉	普通	101,141
	現金			17,148
基金積立用	大光銀行	中沢	定額	10,000,000
	北越銀行	本店	定期	3,156,807
	郵貯銀行	中沢	定期	8,118,912
	大光銀行	中沢	普通	2,835,190
合計				27,661,461

平成22年度決算報告

収入の部

(単位：円)

摘要	予算	決算	備考
前年度繰越金	3,550,552	3,550,552	
会費	3,105,000	3,210,000	@15,000 × 214人分
利息	-	1,044	
名簿代金	-	12,000	@3,000 × 4冊
寄付金	-	-	
雑収入	-	-	
合計	6,655,552	6,773,596	

支出の部

摘要	予算	決算	備考
名簿発行費	4,152,000	4,344,568	
終身会費返還費	-	240,000	@10,000(24人)
事務費	20,000	3,270	振込み手数料等
旅費・日当	200,000	88,000	理事総会、常任理事会、連合同窓会
会議費	100,000	17,550	理事総会
卒業証書ファイル	180,000	183,216	(192+36)名分同窓会名入り
通信費	30,000	15,450	名簿送料等
支部結成補助費	20,000	0	
支部補助費	100,000	0	
人件費	200,000	90,000	H23.3.8役員会
同窓会長賞	130,000	94,531	受賞者13名(平成21年度)
予備費	400,000	205,860	香典、餞別、学校補助、事務へのお礼等
合計	5,532,000	5,282,445	
次年度繰越金	1,123,552	1,491,151	
累計	6,655,552	6,773,596	

資産内訳 (H23.3.8)

	金融機関	支店	口座	残高
通常会計用	大光銀行	中沢	普通	1,378,426
	郵貯銀行	栖吉	普通	101,182
	現金			11,543
基金積立用	大光銀行	中沢	定額	10,000,000
	北越銀行	本店	定期	3,159,080
	郵貯銀行	中沢	定期	8,129,008
	大光銀行	中沢	普通	2,855,828
合計				25,635,067

平成23年度予算

収入の部

(単位：円)

摘要	予算	備考
前年度繰越金	1,491,151	
会費	3,000,000	@15,000 × 200人分
合計	4,491,151	

支出の部

摘要	予算	備考
50周年事業寄付	2,000,000	
会報発行費	1,000,000	平成20年度会報発行費決算は940,258円
事務費	20,000	
旅費・日当	200,000	
会議費	100,000	
卒業証書ファイル	180,000	
通信費	30,000	
支部結成補助費	20,000	
支部補助費	100,000	
人件費	200,000	役員手当で、臨時アルバイト代(時給800円だと150時間分)
同窓会長賞	130,000	記念品*13名
予備費	400,000	学校補助を適宜行なうため
合計	4,380,000	
次年度繰越金	111,151	
累計	4,491,151	



事業年表（平成21, 22, 23年）

<平成21年度事業年表>

- 平成21年 5月12日 同窓会ホームページリニューアル
6月 会員名簿データ修正と追加
8月12日 常任理事会（5回開催）
高志会総会準備等
10月30日
11月7日 高志会総会（新潟市）
11月23日 第1回全国高専同窓会連絡会出席
平成22年 2月12日 第6回常任理事会
同窓会長賞選考
3月5日 第7回常任理事会
平成21年度理事総会について
3月9日 平成21年度理事総会
平成21年度事業および決算報告
平成22年度事業計画および予算

<平成22年度事業年表>

- 5月12日 第1回会員住所調査票発送
8月12日 第2回会員住所調査票発送
50周年事業についての文書
11月4日 学園祭見学ツアー支援
11月30日 第2回全国高専同窓会連絡会出席
12月24日 平成22年度会員名簿発送
50周年事業についての文書
平成23年 3月4日 第1回学内理事会
同窓会長賞選考
3月8日 平成22年度理事総会
平成22年度事業および決算報告
平成23年度事業計画および予算

<平成23年度事業年表>

- 5月 新会員データ入力、名簿データ修正
7月8日 第1回常任理事会
第17号会報、新理事就任について
12月 第17号会報発行
平成24年 2月 第2回常任理事会（同窓会長賞選考等予定）
3月 平成23年度理事総会（予定）

高志会の活動紹介

高志会は、長岡高専同窓会の発展と会員相互の親睦のために活動しています。これまでは(1)高志会総会、(2)同窓会報の発行、(3)高志会会員名簿の発行を毎年1件ずつ実施してきました。しかし、紙媒体の名簿の発行は「平成22年度版」をもって完了することが平成21年開催の総会で決定されました。同窓会員の名簿管理及びサービスはこれまで同様に継続します。現在、名簿発行に変わる新しい情報提供サービスを準備しています。

この他、毎年卒業式後に行なわれる表彰式において、在校時の課外活動で優秀な成績を収めた卒業生に対して「同窓会長賞」を同窓会長が直接授与しています。さらに、卒業生・専攻科修了生全員に、卒業・修了証書カバーの提供を継続して行なっています。

今年6月に予定されていた長岡高専創立50周年の式典は、平成24年6月に延期されました。同窓会は、長岡高専の活性化のために今後も積極的に協力していきます。

これらの高志会の活動や各種の情報は、ホームページに掲載しております。

(URL:<http://www.nagaoka-ct.ac.jp/dousoukai/>) こちらもぜひ御覧いただき、ご意見等もお寄せください。

(工化15回卒 鈴木秋弘)

個人情報の取り扱いについて

同窓会高志会が収集した個人情報は、同窓会名簿の作成及び会報などをお送りするための宛名出力の付帯業務に使用することを目的としており、それ以外には利用いたしません。

収集した個人情報について、委託先も含め、機密保持には万全を尽くします。

自己情報を照会したい場合は、同窓会高志会までご連絡ください。本人であることが確認できた場合に限り、開示いたします。その結果、訂正または削除を希望される場合はそれに応じます。

編 集 後 記

未曾有の大災害となった東日本大震災および福島原子力発電所の事故に直面し、自然の力と安全基準の再確認を世界のみなが感じたのではないのでしょうか。被災地救済を考えることに加えて、技術者として未来に向けて何ができるのかを考えることが大切であると痛切に感じています。

この度の災害に対して同窓会としても、長岡高専と協調して、東北地方の高専、同窓会との対応に精一杯努めていきたいと思っています。

その際には、皆様のご支援をお願い致します。

(総務 工化21回卒 小出 学)



書籍紹介

- 「目指せ！プロフェッショナルエンジニア われら高専パワー全開」
(独)国立高等専門学校機構 産学連携・地域連携委員会
「社会で活躍する高専卒業生たち」編集委員会編(日刊工業新聞社)
定価 1,680円(本体1,600円)
・昭和37年に創設された高専は、これまで約35万人の卒業生を世に送り出し、社会で卓越した活躍をし、多くの足跡を残してきました。この本では、そんな卒業生の活躍を広く知ってもらおうという企画のもと、幅広い分野の高専卒業生を取り上げたものです。

長岡工業高等専門学校同窓会高志会

〒940-8532 長岡市西片貝町888

長岡工業高等専門学校内

電話：0258(34)9442

電子メール：kosikai@nagaoka-ct.ac.jp

ホームページ：

URL:<http://www.nagaoka-ct.ac.jp/dousoukai/>